

令和6年度 第2回学校運営協議会議事録（発信者ごとの要点議事録）

日時：令和6年7月13日（土）
場所：田無第一中学校 校長室
出席者：高橋 綾委員 瀬沼 洋子委員 鶴野 美代子委員 鈴木 隆文委員 小野 千代乃委員 辻 康一委員 歌田 多恵委員 欠席者1名 出席者が過半数を超えているため、本会議は成立
第2回学校運営協議会を始めます。 司会の高橋と申します 次第1 校長挨拶 1学期を終えようとしています。運動会は全校で行いました。保護者の方の誘導など昨年度よりスムーズにできたと思います。生徒も運動会にしっかりと取り組むことができ、見に来ていただいた方々よりおほめいただきました。 特別支援学級では移動教室を行いました。日光方面。クマが出ているというニュースがあり観光協会と連絡を取りながら行動しました。今の生徒たちは宿泊経験が少ないですが、いい経験になったと思います。 暑さ指数について、西東京市では、練馬の指数をみています。暑さ指数が31を超えたら戸外での活動は禁止になります。体育の授業は、プールでの授業を行っています。そのときは、見学者は教室で活動させています。4階はエアコンがききづらい状況ですが、首に巻くネッククーラーなどは許可をしています。 2年生では、2学期に職場体験を行います。体験先を確保できました。ご紹介いただきまして、ありがとうございます。来年度に向けてもさらに広げられたらと思います。 夏休みの学習教室もボランティアを紹介していただきありがとうございました。 学年によっては多くの生徒が参加する予定です。 次第2 「デジタル・シティズンシップ教育」の授業について（濱田主幹教諭） 本校では昨年度と今年度の2年間、西東京市の研究奨励校としてデジタル・シティズンシップ教育に取り組んでいます。 まず、「デジタル・シティズンシップ教育」があまり聞きなれない言葉かもしれません。 デジタル・シティズンシップ教育とは、“優れたデジタル市民になるために必要な能力を身につけることを目的とした教育”と言われています。デジタル技術の利用が当たり前となった社会で、子供たちをルールや規則で縛るのではなく、ネットという公共の場での適切な作法や振る舞いを学び、よりよい利用について前向きに考え、実践していこうというものです。 本校では研究主題を「デジタル・シティズンシップ教育の推進～自他を尊重し、未来を豊かにできる生徒の育成を目指して～」とし、学活や道徳の授業をはじめ、学校生活全体を通して、デジタル・シティズンシップ教育の推進を図っています。 本日の1年生は、②対人関係とコミュニケーションをテーマに、同じ言葉であっても人によって受け止め方は違うこと、またネットやSNS上のやりとりでは誤解が生じやすいことを学習しました。2年生は③オンライントラブルをテーマに、リスクを回避する行動やトラブルに巻き込まれた場合の行動について考えました。3年生は⑥ニュースメディアリテラシーをテーマに、SNS上の情報の信ぴょう性やフェイクニュースなどについて学習しました。

本日のような授業は年間3～4回行っており、授業で使ったワークシートは必ず家庭に持ち帰らせ、保護者と授業内容を共有するように工夫しています。デジタル機器の利用については、学校だけでなく家庭と協力して取り組むものだと考えているからです。本日の公開授業では保護者向けの講演も開催しています。

また、教師が授業をするだけでなく、生徒会本部がSNSの利用時の約束をデジタル・シティズンシップ教育の視点で見直したり、各委員会でプレゼンやアンケートを作成して日々の活動に効果的に活用できる場面を考えさせ、取り組んでいます。

実際のところはこういった取組をしたからと言ってすぐに、SNSトラブルが減るかと言えば、決してそんなことはありません。ただ中学生段階ではさまざまな失敗を繰り返し、そこから学び成長していくものだと思うので、私達も粘り強く指導を続けていきます。

来年1月末に、本校で研究発表会があるので、まずはそこに向け、目の前の子供たちのために全力を尽くしていきたいと思います。

校長： これをやったからといってすぐにトラブルがなくなるわけではないですが、意識は高くなってきています。校内では、授業以外はタブレットを使わないというルールでしたが、休み時間も使えるように使い方を見直しており、大きなトラブルはありません。

教員： 休み時間にゲームなどをつかっている生徒も多くはありません。しかし、課題を休み時間に進めたい生徒もいる。授業中にこっそり何かをしている生徒には自由に使える場面を考えさせたいです。ということで昨日まで自由に使用可能なお試し期間でした。

校長： 雰囲気を見ていると、自分たちでセーブできる生徒がおり、考えて行動できているように思います。

次第3 1学期～夏休みの取組について

副校長： 1学期、職場体験先の紹介、ご協力いただき感謝。9月に体験があり、準備を進めている。進路を見定める機会につなげたいと思います。

7月23.24.25日学習教室開催予定。大学生ボランティア8名（うち、一中卒業生1名）。生徒は40名ほど希望しています。

委員： 今後一中卒業生のボランティア参加が増えるとよいと思います。

委員： 2学期のスタートで学校に来づらい生徒には、宿題が終わらないからという理由の生徒もいます。

スタートアップ期間(授業2時間、担任との個人面談)に担任の先生と面談を行い、生徒をサポートするのですが、その期間に宿題が終わってない生徒のサポートもする予定です。

委員： 宿題はそんなに多いのですか。登校できないほどの重荷になるのですか？

委員：そんなに多くはないはずですが。教員間で一覧を見て、調整してくれています。

教員:理科では、自由研究を考えましたが、国語に作文があったので、天気の問題に切り替えました。天気予報を見るだけでも大切な情報になります。

委員:家の前を通る中学生が傘を持っている生徒と持っていない生徒がいますが、自分で考えての行動なのか、天気予報を見ていないのか、気になっていました。

次第4 情報交換

委員 授業を見させていただきました。意見をまとめているところで発言をみられませんでした。3年生の授業で、どの情報が正しいのかという授業を見ました。子供たちが正しく判断できていました。情報の判断が大人でも難しい時もあります。しっかり考えていくことが大切だと思いました。一緒に学んでいきたいと思う。面白い授業でした。

校長:教員も同じように研修で授業を受けましたが、難しかったです。

委員:社会人になって、今の時代に合わせてやっていく。働き方改革の時代。研修医は労働者として認める。当たり前だが、昔はそうではありませんでした。看護師の新人、精神的につらくなってという人もいます。スタートアップとてもいい取り組みだが、社会人になって大丈夫なのかという心配もあります。

校長:耐性を育てていくことが課題です。人とぶつかり合う中で、折れてしまう生徒もいます。学校で培っていく必要もあります。

教員:学校だよりのプレッシャーの話。教員になってすぐのころと比べると違ってきました。国見高校小峰監督の話。「社会の流れとしては、理不尽なことに耐えることも大切という教えをわざとしてきました」というものです。

委員:働き方改革をわかってはいるつもりだが、自分の中でどうかな。と振り返る。
日本が貧乏だったころの汚い仕事でもありつけばいいという時代から裕福になり外国人にやってもらっている時代に。このギャップをみて日本がつぶれていくのか、学校が甘やかしの教育とを感じる部分もあります。

委員:子ども達のメンタル面は弱くなっていると感じるが、スキルを教えることが大切だと考えます。折れずに立ち向かう対処法を学ぶ教育(ライフスキル教育)を取り入れてはどうか。と思います。だが、今年度の教育課程に急に組み込むことは難しいです。

委員:小学校から連携していけると良いと思います。競争をしない、させない教育はどうなのでしょうか。

委員:外国、社会では通用しないのではないかと面ます。

委員:保育園も教育は変化しています。自主性という人権が生じています。「食べ方も自由」「子供自主性を大事にして、何から食べてもいい」「食べなくなったら、食べなくてもいい」「ミニトマトも丸呑み防止で出さない」「咀嚼不要の柔らかいものしか食べられず、学校でご飯、パンでも詰まらせてしまう時代」

委員：孫と一緒に暮らしているが、自分たちの子育てとは違ってきています。子育ての違いを感じます。ジャガイモ掘りにお父さん方の参加がありました。掘り方を知らない親もいます。中学生のボランティアにも参加してもらいました。教えればわかる。体験することが大切親のジャガイモ掘りにも興味がある。大人にとってもいい体験になったと思います。小学校の先生が以前来てくれました。今はなかなか難しいようです。幼稚園の先生が来てくれました。そういうところから交流ができます。大切な学校外の交流が減りました。見られなくなりました。

委員：昨日であいさつ運動が終わりました。小学校は大きな声であいさつできるけれど、中学生になると声は小さくなると思っていたが、あいさつをしてくれました。運動会、久しぶりに見て、涙が出るほどうれしかったです。団体になるとすばらしかったです。家の前でも中学生にあいさつをしているが、まだお互いに交わすところまでいっていません。

委員：デジタル・シティズンシップの授業を見て、板書の仕方、先生の理解の差、長時間の利用のとらえ方が生徒によって違う、高額課金のとらえ方にも差を感じました。ものさしを初めに確認してから課題について話し合うといいのかなと思いました。板書も確認が取れていればよかったです。中学生は大人でもあり、子供でもあり、素直なところもあります。いじめなどないといいなと思います。

委員：グーグルのロコミで裁判を起こしたところがあるが、当院はロコミに答えています。ただの誹謗中傷もあるが、当たっていることもあります。改革で利用しています。自分の中でどう転換するかという力、いろいろなとらえ方もあります。

委員：コミュニティスクールになって、教員の異動に関して、こういう先生に来てほしいという意見を言えます。

委員：昔、日教組関係の先生がいたことがある。教科書は自分で学んだが、考える力がついたと思います。部活動に尽力された先生もいました。今ならばコーチをつけて、部活動でも機会を広げてほしいです。

委員：以前バドミントン部が強かったです。強い部活動を求めます。

委員：陸上部は、全国大会に進む生徒もいます。

委員：クラブチームなどに入る生徒もいます。校内では英語部に入っています。

委員：今は時間的にも制限があります。

委員：越境で通わせている家庭もあります。何か強い部活があるといいです。

委員：外部からコーチとして来てもらっている部活もあります。先生だけではまわらない現状があります。

委員：一つ強みがあるといいです。

委員：コミュニティスクールとして意見を出すことはできます。

委員：一中は若い先生、優しい先生が多い印象。怖い先生がいてもいいと思います。子供を引き付けられる授業力のある先生が魅力的で求める人材です。授業がおもしろくないというのは、そういうところが理由なのではないでしょうか。

委員：昔は、バスケ部顧問で怖い人がいました。けれどもみんなが慕っていました。そんな先生も魅力的です。

以上を持ちまして、第2回学校運営協議会を終了いたします。